

令和五年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

別府市教育長賞

「思いこみ」

べっぴんりつししがきしょうがっこうさんねん
別府市立石垣小学校三年 上野 翔大

「うるさい。とくに男子。」

先生や女の人に、こんなことを言われるのがいやだと思いました。だって声を出していない人もいるし、何もしていない人もいるからです。

ぼくは男子だけど、自分が悪くない時でも「男子」とひとまとめにされて、決めつけられているような気持ちになります。

男子が、女子が、というような言い方が好きではありません。

だけどぼくにも、男子と女子のイメージはあります。たとえば、男ならかわいいものが好きとか、足がはやいとか、さわがしいとかで、女子ならかわいい物が好きで、料理が上手とかです。

でも、女の人でも青や黒とかカッコいい物が好きだったり、男の人でもおとなしくてかわいい物が好きな人もいます。

ぼくは料理も好きだし、きれいな花やピンク色も好きです。けれど、それみんなに言うのは少しはずかしいです。もしわらわれたらどうしようと思っ
てしまいます。

やっぱり自分にも男子はこうとか、女子はこうとか、思いこみがあるんだと思います。この思いこみをたくさんの人がしていると、男の人と女の人のさべつになるのかなと思います。

ふだんの生活でもこまることはありません。

この前、ぼくがお母さんと洋服を買いに行ったとき、自分のほしい色の服が

なかなか売っていませんでした。女の子の服売り場はカラフルで明るい色が多くて、男の子の服の売り場は青色や茶色の暗い色ばかりでした。

女子も男子も着られて、色もえらべる服がいっぱいあったらいいのと思いました。

ぼくは金子みすずの「みんなちがってみんないい」という詩が好きです。

みんなそれぞれ好きな物もとくいなこともちがうし、それがいいと思います。

みんながこんな気持ちになってくれたら、思いこみやさべつがなくなると思います。

ぼくも料理がとく意で花もすきなんだよとどうどうと言いたいし、友だちにも知ってもらいたいです。

もし男子の友だちが、かわいいキャラクターがすきと言っても、ぼくはわらったりしません。

「そうなんだ、いいじゃん。」

と言います。

どうどうと話せたら、同じものが好きな人がいたり、友だちがふえたりすると、すごく楽しいと思います。

ぼくもまだ自分が「思いこみ」をしていることがたくさんあると思っています。でもそれに気づいたときには、みんなちがうのが楽しいんだと考えられる人になりたいです。